

『授業で育てるピア・サポート活動』

藤枝市立 高洲小学校

1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事		プログラム	職員研修	
4月	○第Ⅰステージ集会で、「ピア・サポート」という言葉を紹介する。 ○1年生との出会いの会(全学年) ○遠足(全学年)	出会い	各学級において、仲間づくり、人間関係づくりの活動。 ○第Ⅰステージ振り返り	年度初めの職員会議でピア・サポート活動について周知する。	
5月	○応援練習(全学年) ○運動会(全学年)	力を合わせて	運動会に向けて友達と力を合わせる。競技の練習を通して、友達の良さに気づくための活動。	校務マニュアルにピア・サポートについての活動計画、取り組みの紹介を載せることで、全職員で共通理解できるようにする。	
6月	日々の授業実践の中で 「心を込めて聴く・話す」を重点に据えて、授業における子どもたち同士の関わり合いの質を高めていけるように、実践を行っている。	↑ピア 読書↓	第Ⅱステージ振り返り		
7月			挑戦		友達のがんばり、挑戦を認め、応援したり、支えたりしようとする気持ちを持たせたりする活動。
8月					第Ⅲステージ振り返り
9月	○陸上選手を励ます会(全学年)	高め合い	友達の良さと、自分の良さを出し合い、互いに高め合っていこうとする気持ち、態度を育てる活動。	【随時】 各ステージごとに、ピア・サポートの視点から、子どもたちの様子、行事などを振り返る。	
10月			第Ⅳステージ振り返り		
11月	○親善音楽会出場者を励ます会(全学年) ○校内音楽会(全学年) ○ご年配の方との交流会(3年) ○園児との交流会(1年) ○長縄集会(全学年)		↑ピア 読書↓		第Ⅴステージ振り返り
12月	○園児との交流会(1年)	6年生、学級の友達、地域の方への感謝の気持ちを言葉や態度で表す活動。		授業では、子どもたちのピア・サポートに結びつく発言や関わりに目を向けていく。	
1月		感謝			
2月					
3月	○卒業式(5・6年)				

2 本校のピア・サポート活動の紹介

授業や日常活動での取り組み（提言1）

本校では、学校生活の大部分を占める授業の中で、ピア・サポートを進めることに重点を置いている。特に、「聴く・話す」の指導の中で、相手に伝わる話し方や、相手を受け止める聴き方を、思いやり助け合いの気持ちと重ねて指導する。良いあらわれがあった時にはその場で褒めて認めることで、他者と協力し支えながら学んでいく児童を育てていきたいと考えている。

以下に各学年の授業におけるピア・サポートの成果と課題を記載する。

1年生の成果と課題

目標：話をしている相手の方を見て話を聞く。
相手の方を向いて話す。

- ：相手の方を向いて話ができるようになってきた。
- ▲：相手の方を向いて話を聞くことが出来る子とそうでない子の差がある。

2年生の成果と課題

目標：自分から発表者の方に体を向けて聴く。
自分から聴いている人の方を向いて話す。

- ：「もう一度言って」などと聞き返すことができるようになった。
- ▲：ずっと教師に向かって話す子が多い。声はまだ小さい。

3年生の成果と課題

目標：反応をして次につながるような聞き方をする。
自分の意見を積極的に伝える意識を高める。

- ：反応をしながら聴くことができた。
- ▲：相手の意見と繋げるような反応ができない。

4年生の成果と課題

目標：話し方を工夫させることで、反応しやすくなる。

- ：話し方を工夫することで、聴くときに相手を見ることが出来る子が増えた。
- ▲：相手を意識して間を取って話すことが出来る子が少ない。

5年生の成果と課題

目標：話をしている相手の表情を見つめながら、最後まで話を聞く。

間を取りながら、ゆっくりと語尾まできちんと話す。

- ：少しずつ相手を意識した話し方や聴き方ができてきている。

▲：最後まで聴けない。反応が薄く、浅い。

6年生の成果と課題

目標：自然な反応をしながら聴く。意見、助言、質問をする。

相手が分かっているか、確認しながら話をする。

- ：相手の方を向いて聴く意識が定着してきている。深めるための質問や意見が見られるようになってきた。
- ：教師の促しがなくても、確認をしながら話をする子が増えている。

特別支援学級の成果と課題

目標：話をしている人の顔を見ながら聴く。
相手の顔を見て話す。

- ：相手の目を見て聴くことができる子が増えてきた。
- ▲：静かに聴けているが注意散漫。

どの学年もそれぞれの目標を持って、相手を意識した「聴く・話す」の力を高めることができた。各学年の成果と課題を見てみると、昨年度に引き続き、話すことに関する課題が多いように思われる。自分の意見を言うだけで満足するのではなく、どうしたら相手に自分の意見が伝わるのか考えながら話すことをこれからも指導していく必要があるだろう。

高洲小学校では、今後も「聴く・話す」に重点を置いた授業作りをしていく。そして、それを通してピア・サポートの心を育てていきたいと思う。



行事での取り組み

(1) 運動会

5月に運動会が行われた。グラウンドに多くのクラスが出て、練習に励んでいた。グラウンドには、仲間を励ます大きな声が響き渡り、友達が失敗してしまった時には、「ドンマイ！」と励ます姿も見られた。運動会を通して、仲間同士支え合い、クラスの団結力を高めることができた。

また、各学年の応援団が中心となって、応援練習を行った（提言2）。6年生が各学年の応援団に応援歌を教え、自学年の子どもたちに広めていった。この応援練習をする子どもたちの表情からは、自分の色を応援しようという熱い気持ちと、自分たちで何かを作り上げる充実感を感じた。

(2) 〇〇出場者を励ます会

高洲小学校では、毎年4年生が親善音楽会に、6年生が陸上競技大会に出場している。4年生と6年生が学校の代表として、それまでの練習の成果が十分に発揮できるよう、全校児童で励ますための集会を毎年行っている。

親善音楽会出場者を励ます会では、音楽会に出場する4年生が合唱と演奏を披露した。どの児童も4年生が一生懸命練習してきた合唱・合奏を真剣に聞いていた。

陸上選手を励ます会では、出場選手が今までの練習で頑張ってきたことや、本番での意気込みを全校児童に話した。会が終わった後、児童達に感想を聞くと「かっこよかった。」「本番でも頑張りたい。」「という感想が多くあった。1～5年生のこのような憧れの想いが6年生の自尊感情と代表としての自覚を育てて行くのだと感じた。

学校全体としての取り組み

JRC活動の推進

伝統的に行われてきたJRC活動を、引き続きJRC委員会が中心となって行った。（提言6）アルミ缶、ペットボトルキャップ、古切手を回収する活動を毎朝行っている。回収された物はお金に換え、車椅子などを購入して円月荘に贈ることに使われる。JRC活動によって、自分が出来ることで他の人を助けようとする心を育てたいと思い実践している。しかし、例年低学年と高学年で活動への意欲

に差があることが課題となっている。そこで今年度は学年で1週間にアルミ缶やエコキャップを持ってきた人数を競うという取り組みを行った。この取り組みによって、普段より多くの高学年がアルミ缶やエコキャップ集めに参加した。この企画をきっかけとして、これからも全学年の児童が回収運動に協力してくれるような手立てを考えていきたい。

ペア読書

1年&6年、2年&4年、3年&5年がペアとなり、朝の活動の時間を使って上級生が下級生に読み聞かせをした。（提言1）子どもたちは、図書室や家にある本から、ペアの子が楽しむことができる本を探した。当日に向けて、読み方、本の持ち方など聞き手を意識して練習を行っていた。ペア読書後の振り返りでは、下級生が上級生にお礼の手紙を送ったり、感想を伝えあったりするなど、温かな姿が見られた。

3 本年度の成果と課題

◎前年度に引き続き、各学年の実態に合わせて「心をこめて聴く・話す」の指導を徹底した。授業中だけでなく、普段の生活の中でも、相手を尊重する態度や、相手を思いやる姿、声かけが多くあった。（提言1）

◎ピア・サポートを広める集会やピア・サポートの目標を掲示する取り組みによって、多くの児童に「ピア・サポート」という言葉を広めることができた。

▲多忙化解消が推進されている昨今、ペア活動を推進していくことは、有意義であると同時に負担も大きくさせてしまうことである。ピア・サポート活動に関しても、精選をしていかなければならない。同時に担任にも負担をかけてしまう場合もある。ピア・サポート活動を日常化させていくことで、そのようなことが無いようにしたい。

5 おわりに・・・平成31年度に向けて

本校では、引き続き、授業を中心にしたピア・サポート活動に取り組んでいく。年間を通じた「心をこめて聴く・話す」指導、そして学年目標やステージ目標にピア・サポートの視点での目標と振り返りを組み込むことで、成長を促す指導を推進していきたい。